

Last summer when I was enjoying driving with my family, I saw some
建造物 丘
 strange structures standing on a hill near the sea.
〈名詞＋動詞の-ing 形(後置修飾)〉～している…

Each of them had some parts that turned around. The parts looked like a propeller.
部分 くるくる回る プロペラ

At that time I didn't know what they were.
〈間接疑問 what〉～は何か

I asked my father about them. He said they were windmills to make electricity.

They were different from the windmills that I saw in pictures or on TV.
～とちがって 先行詞 〈関係代名詞(目的格)〉

So I learned windmills can make electricity for the first time.

In fact I never thought about how we get electricity before.
〈間接疑問 how〉どのように～なのか

My father said to me, “Wind energy, hydro energy and solar energy are clean
風力エネルギー 水力エネルギー
 energies. We should use clean energy more to protect the earth.

But it is not easy to get enough electricity for our everyday lives from only clean
electricity を説明 get を説明〈get ～from...〉
energy.

We use too much electricity every day. But is it really necessary for us to do so?

I don't think so. I want you to think about how we waste electricity.
〈want+A+to ～〉Aに～してもらいたい 〈間接疑問 how〉どのくらい～か

I said, “I agree. I think we should reduce waste in our lives.”

この前の夏、家族とドライブを楽しんでいるとき、私は、海の近くの丘にたっているいくつかの見たことのない建造物を見ました。

それらのそれぞれにくるくる回る部分がありました。その部分はプロペラのように見えました。

そのとき、それらが何か、私は知りませんでした。

私は父にそれらについてたずねました。父は電気を作るための風車だと言いました。

それらは私が絵やテレビで見た風車とはちがっていました。

それで、私は初めて風車が電気を作ることができる我知道了のです。

実際、私はどのように私たちが電気を得ているのかについて以前は考えませんでした。

父は私に言いました。「風力エネルギーや水力エネルギー、太陽エネルギーはクリーンエネルギーなんだ。私たちは地球を守るために、もっとクリーンエネルギーを使うべきだね。

でも、私たちの毎日の暮らしに十分な電気をクリーンエネルギーだけから得るのは簡単ではないんだ。

私たちは毎日あまりに多くの電気を使う。だが私たちがそうすることが、本当に必要だろうか？

ぼくはそう思わない。きみには、どれほど私たちが電気をむだ使いしているかを考えてほしいんだ。」

「そうね。私たちは暮らしの中のむだを減らさなきゃいけないと思うわ。」と私は言いました。

Kumi : John, we have to talk about our future dreams in our English class.

It's your turn in the next class. Do you remember that?

John : Yes, I remember. I've been nervous because of that for a week ...
〈関係代名詞(継続)〉 そのために ~の間

Kumi : Have you? But why? You always make good speeches, don't you?

John : Thank you. But I'm not sure what I want to do in the future. How about you?
〈間接疑問文 what〉 ~は何か

Have you decided your future job, Kumi?

Kumi : Me? Yes, of course. I want to be an interpreter in the future!

John : That's good. You like English very much.

Kumi : Yes. That is one reason. Another reason is more important.

I want to talk with a lot of movie stars around the world.
映画スター

John : I see. That's really important for you because you like movies.
〈because+主語+動詞〉 ...が~なので

Kumi : Yes. How about you? You like science and your father is a scientist.

I thought you wanted to be a scientist like your father.

John : My parents want me to be a scientist.
〈want+A+to ~〉 Aに~してもらいたい

And I thought so too before coming to Japan. I like science very much.

But I have been interested in Japanese history very much since I began to live in Japan.
〈現在完了形(継続)〉 〈since+主語+動詞〉 ~したときから

So I want to study Japanese history more than science now.

Kumi : Really? I'm very glad to hear that. Why don't you study both?
〈不定詞(感情の原因)〉 ~して...

John : Oh, Kumi. Saying is one thing, doing is another.
言うは易(やす)し行ふは難(かた)し

Kumi : Yes, you're right. But you should try! You can be a science historian.
科学史家

John : Science historian? Good! Now I'm interested in it. Thank you, Kumi.

Kumi : You're welcome. I want you to be a good science historian.
〈want+A+to ~〉 Aに~してもらいたい

久美 : ジョン, 私たち, 英語の授業で将来の夢について話さなくちゃいけないわね。

次の授業はあなたの番よ。覚えてる?

ジョン : うん, 覚えてるよ。そのせいでこの一週間落ち着かないんだ…。

久美 : そうなの? でもなんで? あなたいつもすばらしいスピーチしてるじゃない。

ジョン : ありがとう。だけど, 将来何をしたいかがはっきりしないんだ。きみはどのような?

久美, きみは将来の仕事をもう決めた?

久美 : 私? 決まってるわ, もちろん。私は将来, 通訳者になりたいの!

ジョン : それはいいね。きみは英語がとても好きだよな。

久美 : そうなの。それが一つの理由。もう一つの理由はもっと大事なの。

私は世界中のたくさんの映画スターと話したいのよ。

ジョン : なるほど。それはきみにとってはほんとうに大事だね。だって映画が好きだから。

久美 : そうよ。あなたはどのような? あなたは理科が好きで, お父さんは科学者だわ。

あなたはお父さんみたいな科学者になりたいんだと思ってたわ。

ジョン : ぼくの両親は, ぼくに科学者になってほしいと思ってるよ。

それに日本に来る前はぼくもそう思ってた。ぼくは理科がとても好きだよ。

でも, 日本に住み始めてからずっと, 日本の歴史にとっても興味があるんだ。

だから今は理科より日本の歴史をもっと学びたいんだ。

久美 : ほんとう? それを聞いてとてもうれしいわ。どっちも学んだら?

ジョン : おいおい久美。言うは易し, 行ふは難し。

久美 : ええ, その通りね。でもやってみるべきだよ! あなた, 科学史家になれるわよ。

ジョン : 科学史家? いいね! 今, それに興味があるよ。ありがとう, 久美。

久美 : どういたしまして。いい科学史家になってね。